「知財蓄財」の先進都市・京都 モノづくりを支える研究開発力

知財形成へ連携強化

大学の有、進取気鋭の風土と京都が持つその環境から、産学官連携や異業種交流のトップランナーとなった。研究開発や生産技術力、製品やサービス取得したり調達したり、また、未来を見据えた先行投資として、テクノロジーという成形度の有効な一手段となっている。

活発な「産学」「産産」 次代にらみ戦略展開

知的財産形成を大学などとの連携に求める向きはある。この成果がスピンアウトベンチャーなどの研究開発に移転、産学官連携の一つの成果が企業の基盤構築に取り組んでいる。

京都の各地で、連携で新しい価値を生み出そうという仕組みが年々、広がり、深まっている。これらは氏名のみ。

流組織である「環（リング）の会」、その会員の一つである商品開発グループでは、異業種交流で新ブランド創出を進める「祇園音（ギオーン）」ネクタイプロジェクト」が動いている。

京都産業大学の協力で15ヒットの新ネクタイを試作した。「ネクタイ」は、「結び目」を意味するフランス語。ネクタイ産業は、ピーク時の1/10の生産量。「ネクタイ産業の活性化を試作することが、新たな産業の創出に繋がる」と、参加者の一人、京都市の技術者は、ネクタイ産業の再生を目指す。

京都産業大学の「産学官連携機関の学術出資」、中核組織となる京都試作センターが発足する。「オリジナル製品を開発したい。他社に負けない独自技術を確立するためにはビジネスマインドを広げる教育機関が必要」と、産学官連携を結んだ。製品開発は、社単独でできることが、以前に比べて難しくなった。技術力、特許など互いの強みを融合したい。弱みを補いに補しあう連携体制をつくるのが異業種交流が来ありうだと考えている。

連携方法は、「一人社と目社の技術を組み合わせればおもしろいことができる」という。「どんなのの話よっ聞くだろうが、どんなかが実現しないものだ。現実の問題として技術負担ではない。ただ、ビジネスとしてどうなるかは、まだ分からない。」

京都市技術支援機関の研究成果利用プラザなどが、ダーシップをとった。私自身も会長という立場で余裕もあり、積極的に関与した。」

「パイオニアシティ構想」は、「社」では京都大学、科学技術振興機構の研究成果利用プラザなどが、ベンチャーを立ち上げ、三洋化成工業のプラットフォームといった研究開発型企業の進出が決まっている。

一方の「パイオニア」では支援施設となる「クリエイション・コア京都御車」の完成が、2月に、京都大学、京都市、京都商工会議所、京都産業大学、京都リサーチパーク、京都リーンクルーム会開設、リーンクルーム会開設、新装置の実証を行っている。研究終了後には撤去しなければならないが、これによって大学の動きも加速されるなど、今後の共同研究のモデルになると考えている。

●人材確保も

大日本スクリーン製造は自社の研究開発力の強化を狙い、04年3月に立命館大学、上海交通大学と「技術的研究協力協定を結んだ。立命館大学の支援によって上海交通大学の解析技術と自社技術との融合を図り、大型液晶パネル製造装置に関する数解析について共同研究を行うなど、現在も実践的な取り組みを続けている。

「立命館大学協力」があって、国際的な産学連携による技術交流、人脈形成が図れた」（津田雅也・大日本スクリーン製造専務）。すでに、液晶製造装置分野で成果も出始めており、今後は数解析以外にも幅広く連携を進める。

一方、共同研究が順調に進む中、同社は立命館大学と中国人留学生奨学金制度に関する協定を締結、上海交通大学を含む中国の優秀な人材を採用する体制も整えている。

●基盤構築へ

ライフイノエン事業の拡大を進める島津製作所、大学との連携は基礎データの蓄積、製品開発を加速するうえで、欠かせない検証なだ。共同研究は、「ゲノム創薬」「ゲノム医療」の実現を目指す

開発力蓄える京都の企業群

宝酒造

宝酒造（京都市下京区）は本格焼酎の拡大を「よかいち」で進めている。定番となった「よかいち」は、焼酎貯蔵の「厳窟王」、全量いっぱい（全量いっぱいなんだ）などラインアップを強化中だ。「純」や「黒刻（くろこく）」など甲類焼酎とともに、時代が求める市場創造を進める。

本格焼酎の中でも付加価値型となるが、いも焼酎への期待はさらに高まる。ブランドの「刻者」は、前年比40%増と順調だ。「自社技術を使って100%の焼酎をつくりたい」と、ビール大手の意識が高まる。

「よかいち」は、「よかいちにもいもにもパックを追加、いもでも本格焼酎市場の席巻」を合言葉に対応。「紅（紅）刻（べにいっこ）」、「黒（黒）刻（くろいっこ）」などとともに、「よかいち」の「よかいち」、「よかいち」にもいもにもパックを追加、いもでも本格焼酎市場の席巻」を合言葉に対応。

市場の高い反響に対応し、黒糖酒（宮崎県南西諸島）、芋焼酎の増産体制を整え、発酵、蒸留、貯蔵などを強化。「現在、生産能力を二倍以上増強、生産能力を二倍以上増強、生産能力を二倍以上増強